

平成29年度 第1回 和光市協働推進懇話会 会議録

日 時： 平成29年8月3日（木） 9時50分～11時30分

場 所： 和光市役所6階 602会議室

委 員：

学識経験者	◎粉川 一郎（武蔵大学社会学部メディア社会学科 教授） ○庄嶋 孝広（市民社会パートナーズ 代表）
市民団体を代表する者	森田 圭子（NPO法人わこう子育てネットワーク）
公共的団体を代表する者	萩原 尚（和光市自治会連合会）【欠席】 須々木 愛優佳（和光市社会福祉協議会 ボランティアセンター）
和光市協働推進庁内調整委員会	梅津 俊之（和光市政策課）
和光市協働推進ワーキング	金岡 裕美（和光市環境課）

◎会長 ○副会長

事務局：市民環境部 中蔦、市民活動推進課 長坂、中川、新坂

傍聴者：4名

1 委嘱式

任期は委嘱された日（本日）から平成30年3月31日までとする。

■市長あいさつ

今年度、協働事業提案制度の見直しを行う。私が市長として1期目の8年前に始まった事業でそこから長らく続いているが、さすがに同じ仕組みで続けていくには少し無理が生じてきたのではと思っている。今のままでは新たな掘り起こしをすることができないだろう。新たなアイデアの中で、市民協働の全体の幅であるとかを踏まえながら良い掘り起こしの方法を考えていただきたい。和光市は今までも市民協働を頑張っている方だとは思うが、より良いものを目指して行きたいと思っている。制度をつくった当初は、私自身もいろいろ考えて関わっていたが、私の手を離れて、私では想像もつかないような素晴らしいものができるの良いと考えている。

また、それ以外の協働のことについても議論いただき、和光市の活性化につなげていただければと考えている。

2 平成28年度実施 協働提案事業報告会について

■報告会について

平成28年度に実施した協働事業提案制度に基づく事業について、和光市協働事業提案制度実施要綱第13条に基づき、報告会を開催した。

□発表時間：30分程度（発表10分、質疑応答20分）

□発表方法：任意形式

□発表内容

事業名	団体名	担当課
和光市自然環境マップの作成	NPO法人 和光・緑と湧き水の会	市民環境部 環境課

■和光市自然環境マップ 質疑応答

- 【庄嶋委員】活用の方法について質問する。先ほどの報告では、市内の学校等の授業に活用するという話があったが、近年、ウォーキング等がブームになっている中で、市内にある健康づくりやまち歩き等を行っている他の団体、あるいは市内に限らずまち歩きを行っている団体もいる。それらの団体にこのマップを活用してもらう方法や工夫について、どのように考えているか。
- 【団体】このマップを広く知ってもらう為に、さまざまなジャンルの団体に働きかけ、共催できたらと思う。
- 【庄嶋委員】事務局に確認だが、他ジャンルの団体が顔を合わせるような、市民活動団体のネットワークづくりを目的とした機会はあるか。
- 【事務局】市民協働推進センターでは、年に1度交流会を開催している。ここでは、環境系、福祉系他、さまざまなジャンルの団体が顔を合わせ情報交換している。この機会を活用することもできるのではないか。
- 【森田委員】団体の長年にわたる緻密な調査活動があったからこそできたマップだと思う。今回、紙媒体のマップが完成した。インターネットで公開することは考えているか。
- 【環境課】市の公式ホームページで公開し、ダウンロードできるようにしている。
- 【森田委員】これだけ素晴らしいマップなので、インターネット上でのさまざまな広がりが見られる。マップそのものをダウンロードし、紙で印刷するだけでは限界があると感じる。インターネット上でクリックをするとその情報の詳細を見ることができる、等の展開は考えているか。
- 【環境課】直近では考えていないが、今後の検討材料とさせていただく。
- 【粉川会長】団体からの報告資料には、「市民新報（和光市・新座市に配布されている市民新聞）」の写し等、どのように広報されたか分かりやすいものが添付されている。担当課は、「プレスリリース」や広報紙、市のホームページ等により周知を行っているので、こういったものを参考資料として報告書に添付して欲しい。
- 【環境課】承知した。
- 【粉川会長】3,000部作成したとなっているが、配布が済んでいないものに関してはどのように管理しているか。
- 【環境課】現在約1,500部配布済み。市内公共施設や学校、市役所での配架の他、要望があればその都度お渡ししている。
- 【粉川会長】チラシやパンフレットの管理は難しいが、事業の効果測定という面からは、どこにどれだけ置いて、どのくらい取ってもらったかを把握しておく方が良い。
協働事業で3,000部の他、団体が独自に3,000部印刷したとあるが、契約書に著作権のことは記載しているか。
- 【環境課】著作権は市と団体双方に帰属していることを、契約書に記載している。

- 【粉川会長】イラストレーターでの印刷用デジタルデータ作成費用として75,000円の支出がある。これは、どなたに支払ったものか。
- 【団体】会員に支払った。役員や理事ではない。事前に環境課に確認して、適任者と支払額を決定した。当会には、印刷関係に詳しい会員がおり、業者に同様の内容で委託すると総額40万円を超える、ということが分かっていた。そのため、スキルを持っている人物を精査し、最低限の金額として75,000円を支払うことになった。
- 【粉川会長】この報告会は、公金を使った事業の最終的な報告の場である。75,000円という額が、全体事業30万円のうちの大きな割合を占めており、支払先が団体の構成員や理事等であった場合、説明が必要となってくると思ったので、確認をした。
- もう1点お話しする。少し残念に思ったのが、「このマップがどうやって作られたか」がページの下部に小さく書いてある。とても丁寧に書いてあるのだが、せっかく団体と行政が協働事業で実施している事業なので、もう少し分かりやすいところに掲載しても良かったのかな、と思う。
- 【庄嶋委員】完成したマップは配布を続けていくうちに無くなっていくわけで、無くなればまた増刷して行く考えはあるか。
- 【環境課】予算の話になるので言い切ることは出来ないが、配布状況等を踏まえて検討していく。
- 【団体】学校からの反響はかなり良かった。今後、生徒たちに配ることを想定し、会としても独自に3,000部印刷した。また、団体が外部団体等から講師を依頼された際にも配布する予定である。
- 【庄嶋委員】団体として広めていく部分と、市として備えておく部分というのがあると思う。権利面については先ほど確認していただいたとおりだが、今後、役割分担をする場面がどこかで出てくると思うので、はっきりさせておくの良いと思う。

3 会長選出及び副会長指名について

- 【事務局】和光市協働推進懇話会設置要綱第5条に、「懇話会に会長及び副会長を置き、会長は委員の互選により選出し、副会長は委員の中から会長が指名する」とある。推薦等があったらお願いしたい。
- 【庄嶋委員】前期から引き続き委員をしている方と、今期からの委員がいるが、私自身前期から委員をやらせていただいている中で、前期会長を務めていただいた粉川委員を推薦する。進行とまとめを的確に行っていただいたというのが推薦理由である。
- 【一同】異議なし。
- 【粉川会長】よろしくお願いします。副会長の指名については、会長が指名権を持っている。副会長は、和光市の施策に長く携わり、全国の地域づくり、まちづくり、市民協働に関して知見が深い、庄嶋委員にお願いをしたい。
- 【庄嶋委員】よろしくお願いします。

■決まったこと

- ①粉川委員を会長とする。
- ②庄嶋委員を副会長とする。

4 事業評価について

■事務局より流れを説明

「協働提案事業 評価要領」に基づき評価を行なう。

（ 協働事業中間報告書・協働事業実績報告書及び本日の事業報告会を基に、各委員は協働事業評価シートに評価を記入する。）

【粉川会長】時間の問題もあるため、懇話会は意見交換の場とし、評価シートは各々が後日記入、提出してはどうか。

【 一 同 】異議なし。

事業名：和光市自然環境マップの作成

団体名：NPO法人和光・緑の湧き水の会

担当課：市民環境部 環境課

【森田委員】この団体は、和光市の自然に長年携わることで素晴らしい専門的知識を持っているだけでなく、親子フィールドワーク等さまざまな事業を実施してきた。その経験があるからこそ30万円という少ない額でこのような価値のあるマップができた。実績報告書を見ると、「『協働基本原則』に則って事業に取り組めたか。」の質問に対し、団体、担当課とも6項目全て「はい」と答えている。お互いを尊重しながら、良い関係性の中で進めて来れたことが分かる。また、費用対効果もあるものだった。協働に世間が興味を持っている中で、大変素晴らしい。このマップを和光市の財産として効果的に発信していく仕組みをつくることを期待する。

【須々木委員】この団体には、夏休みにボランティアの受入れをさせていただいており、小中学生から大人まで幅広い層が和光市の自然活動の理解を深めることにご尽力いただいている。これから和光市に転入して来る人たちに対し、マップの内容を情報提供することで、和光市をより身近に感じてもらえたり、環境保全に興味を持ってもらったり、ということができると思う。

【庄嶋委員】実績報告書の中で、団体と担当課、それぞれの記載に印象的な言葉があった。団体からのコメントでは「どちらかが単独で実施した場合には得られない成果」、担当課からのコメントでは「市単独ではなし得ない充実した内容の成果品が得られた」という表現がある。互いに評価しており、先ほど森田委員がおっしゃっていた信頼関係の表れと言える。また、急に事業を思い立って春から写真を撮り始めても、1年分の写真を掲載することはできない。団体がこれまで蓄積してきたものを活用したことで初めて成り立った事業であることが分かる。ある意味理想的な協働事業である。和光市の皆さんが持っている高い知識レベル等を活かして、このように市民や市外の人たちが活用できるマップというものが完成したことは、協働事業をやっている意義が表れていると思った。そういう意味でモデルケースとなり得る事業だと思う。積極的に評価したい。

【金岡委員】今回、担当として事業に関わった当事者である。湧き水の会という、和光市で長い間活躍している団体がおり、今回の事業に熱意を持って手を挙げてくれたことで実現した事業。

このような会の方々がいなければできなかったマップであり、これは市としても大変幸運なこと。また、このようなマップは通常の業者委託で単年度で完成させることは困難であり、完成してもそこで終わりとなってしまふ。しかし、今回湧き水の会とマップを作成したことで、今後湧き水の会と協働でイベントをする際に活用したりと、これからにつながるものができたことは大変ありがたい。実際、今年度もこのマップを活用した事業を実施予定である。

【梅津委員】素晴らしいマップが出来上がった。他の委員も言っているように、行政だけではできなかった成果物である。今後、改訂・見直しをする必要が出てきた際も、ぜひ協働事業で行っていただきたいと思う。

【粉川会長】委員のコメントをまとめる。協働事業として考えた時、適切な内容であった。事業スケジュール等にしても、このパートナーだからこそできるスケジュールであり、アウトプットとしてのこのマップも素晴らしい。協働としても、両者のコミュニケーションがしっかり取れている。また、外部との広がり、ネットワーク等を含めて作成できたという点を取っても理想的な事業であったのではないか。その他に委員から課題等のコメントはないか？

【庄嶋委員】デザインの部分の費用について。業者に頼むだけでは関係が切れてしまうが、今回、身近なところに技術を持っている人がいたという点で、結果としては、団体と協働で行っているからこそ、今後手直し等が発生した場合に協働事業で行うことも可能となってくる。また、その部分をボランティアなものとして見込むのか、対価を払ってでも確保するものとして見込むのかの判断が必要となるが、協働事業はどうしてもボランティア的な要素を含めることによって成り立たせるという部分がある。そのまま市場価格で払ってしまえば業者に支払うのと変わらない。これは、昨年度の懇話会でも話されたことだが、協働事業とは何をもって協働事業なのかというところに関わってくる。今回の事業では無事乗り越えることができたが、デザインなどの専門性を必要とする部分をお願いする際に金額をどのように見積もっていくのかを、ケーススタディとして検討していく必要がある。

【森田委員】当団体でも市の事業でマップやチラシを作成したことがあるが、手に取ってもらうにはデザインのインパクトが必要。若い人たちの中には、デザインのスキルを持った専門家「プロボノ」がいる。団体がマップやチラシを作る際に、そういう情報を得て、専門家にボランティア的要素を持って協力してもらうことができれば、市民活動団体もインパクトのあるデザインのマップやチラシを作成できると思う。

【粉川会長】まとめ兼ね、私見を述べる。客観的に見て、この事業は通常では30万円ではできないだろうと感じた。団体が行ったボランティアワークの部分や、デザインを業者に委託した場合のオペレーションの費用等、全部のインパクトを加えると、おそらくは100万円以上の事業規模となるのではないか。協働事業で行ったことにより、30万円の投資がこれだけの事業となった点からは、市としては有益な事業であったと考えることができるが、その中で団体がどれだけ苦勞をしたのかを意識する必要がある。ひょっとしたらもう少し投資をした場合、もっと良い事業になったのではないかという考えもある。そう考えると、協働事業の適正な予算規模をつくるというのは難しいことだと分かる。行政側が、「この事業がもたらすインパクトがどれぐらいになり、団体メンバーのボランティアワークや、今まで団体が培ってきたスキルがどれぐらい必要になるか。」そして、「その価値がいくらぐらいだから、今回の予算規模はいくらぐらいになる。それを行政が全部カバーするのは

大変だが、そのうちの何%をカバーする。」というようなことをもう少し慎重に考えて行く時代になったのではないかと感じる。全体として、今回の事業は非常に優れていると言いうことができる。私個人としては、このマップはインバウンド需要にも応えられるのではないかと、思っている。例えば日本滞在期間が短く、東京以外に観光できない、という外国人が日本の自然に触れたい時に、マップを使って和光市の自然に触れるという、広がりのある事業ができるのではないかと。

5 その他

■事務局から

(今後の予定について)

□今年度の懇話会は、第2回を11月、第3回を2月に予定している。

- 議題(予定)
- ・「和光市自然マップの作成」事業 評価シートの報告、まとめ
 - ・協働事業提案制度の見直し

(現在実施中の協働提案事業について)

□「お家(うち)ごはん塾」《市民提案》

□今年度は、協働事業提案制度を中止することとなった。

代替案として、「マッチング相談会」を6月に開催した。この相談会をもとに、現在マッチングをしているところである。